

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590700080		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム守山大門 1階		
所在地	滋賀県守山市大門町114		
自己評価作成日	平成28年12月26日	評価結果市町村受理日	平成29年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosvCd=2590700080-00&PrefCd=25&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成29年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田んぼや畑が広がる自然豊かなのでどかな環境のもとアットホームで、居心地の良い空間作りをしている。家庭菜園があり、収穫や季節を感じる場、活躍の場として取り組みをしている。地域との繋がり・交流を大切にしていきたいと考えているため、美容室や買い物など積極的に地域の利用をしている。また、事業所から家族や地域に向けた便りの発行や自治会館での体操や祭りなどの行事にも参加させて頂いている。地域の清掃活動へも職員が参加させて頂き、交流ができるように努めている。地域やGHの消防訓練など互いに参加していけるようにしていきたい。地域のボランティアさんにも定期的に来ていただき、歌や踊り、折り紙等をして頂いている。相談員の受け入れ等自治体からの提案を積極的に受け入れている。昨年度は小学校の交流学習にも協力できた。地域交流を一つずつ進めていきたいと考えている。看取りについて、家族様と十分に話し合い、対応・支援し住み慣れた環境で安心して最期を迎えてもらえるように努めている。人員の問題などで必ずしも利用者の希望が全て叶えているとは言えないが、出来るだけ希望に添えるよう各職員が日々話し合い、考え、支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「まんまる笑顔、守山大門」というホーム独自の理念を掲げ、「自分の家だったら」「自分だったら」どうなりたいのか、どうしてほしいのかという共通意識を持ち、日々の支援に当たっています。家庭菜園や外出支援、趣味など取り入れながら利用者ができることや楽しみ事をたくさん引出し、ホームでの生活が笑顔で自分らしく安心して暮らせるように取り組んでいます。近隣への買い物や散歩、行事への参加、地域ボランティアの来訪、町内会の掲示板へのホームの新聞の掲示、職員による地域の清掃活動への参加などホームの事を知ってもらい、地域の中でグループホームの役割も果たせるように努めています。また、利用者や職員が地域の中で支え合いながら暮らしていくには何が必要なのかを考えながら地域との関わりを少しずつ広げています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	洛和会の理念に基づき、自事業所理念を作り、「まんまる笑顔」を大切に、「家」というキーワードで個々の利用者様のニーズに対応できるように努力している。	開設時に職員一同で考えたホーム独自の理念「まんまる笑顔 守山大門」を掲げ、会議などで振り返る機会を持っています。利用者の立場に立ち、自分だったらどうしてほしいのかという思いを大切に利用者のできることを引き出し、笑顔の見られる暮らしに繋がるよう支援し、理念の実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方と顔を合わせた時には積極的に挨拶するようにしている。自治会の百歳体操や夏祭りなどの行事に利用者様と参加したり、地域の清掃活動に職員が参加したり、事業所の行事にはいつも来て頂いてる近所のボランティアさんを誘っている。また発表会などあれば応援に行くこともある。	散歩や買い物で近隣へ出かけた際には、出会った方と挨拶を交わしています。町内会にも加入し地域の行事に参加し積極的に交流するように努めています。音楽や折り紙などのボランティアの来訪は定期的であり、ホームで主催するバーベキュー大会やクリスマス会などにも参加があり日常的な交流が深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお祭りや行事、体操などに利用者と共に参加すること、買い物や美容院なども近くのところへ行くことを心がけ、職員と子ども顔見知りの関係を築けるように努め、関係性を築いていけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではサービスの実践内容や、現状報告をしている。家族様の参加も会議で考え日程調整なども行った。今年度は民生委員の参加は無いが案内や議事録を届けている。また昨年度より自治会長の参加があり意見交換、状況報告などしている。	運営推進会議は、自治会長や市職員、家族などの参加があり、2カ月に1度開催されています。ホームからは行事報告や事故報告などを行い、参加した家族から新しい制度などについて質問があった時には、市職員から説明してもらうなど情報交換が行われ、有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	守山市とは、運営推進会議を通して、地域の情報交換や、事業所の運営状況の報告をしている。昨年度から相談員派遣の受け入れをしている。	市職員には運営推進会議に参加してもらっており、ホームの状況を伝え疑問点があった時には都度相談しアドバイスをもらう等、協力関係を築くように努めています。市の主催する研修や会議などへは、可能な限り参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、全事業所あげて、研修を行うなど、禁止に努めている。当たり前には守られる人権である事は理解できている。なお玄関の施錠は、防犯上19時に施錠している。	年1回法人が主催する研修に代表者が参加し、ホーム内で伝達研修を実施しています。言葉による拘束にも配慮し、外出希望の利用者にはさりげなく寄り添い拘束感のないような支援に努めています。不適切な対応があった場合は、職員同士で注意し合ったり、会議等で検討し振り返るようにしています。	

洛和グループホーム守山大門(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても、全事業所をあげて、研修を行うなど、職員個々の意識付けを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、法人内で、成年後見制度のについての研修をおこない、知識の共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、説明を行い、疑問点や不安については、お尋ねし、解消できるように努めている。また、介護報酬改定による変更点などもその都度説明し、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には直接的な言動の他、些細な変化から思いをくみ取れる様努めている。家族からは満足度アンケートを行い、意見を聞き、満足度向上に繋げている。各フロアの玄関に、ご意見箱を設け、随時ご意見を聴く体制を整えている。	家族の意見は面会時など利用者の様子を伝える時や、年1回法人が実施する満足度アンケートなどで聞いています。利用者に対する声の掛け方や部屋の衛生面に関する事などアンケートで得られた意見については法人から報告があり、対応策についてホーム内の会議で検討し、サービスの向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを行うと共に、会議や面談を通じて、職員の希望を吸い上げ、上長に報告・相談している。職員に対しても、満足度調査を実施している。また、必要に応じて面談も行っている。	会議や日々の業務の中などで積極的に意見交換を行っています。職員から提案のあった自治会館での百歳体操への参加や「家」というキーワードを基に相手の立場に立った支援について考えるなど運営に反映させています。職員に対しての満足度調査や定期面談、様子を見ての随時面談を実施するなど意見を聞く機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の力量評価・面談を行うと共に、適切に職員自身を見極める様に努めている。また、法人内でのキャリアパス研修において、職員の質の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を設け、個々の力量に応じた研修をうけ力量アップにつなげている。また、内外問わず、できる限り研修への自主的な参加を実施している。また、法人内でのキャリアパス研修において、職員の質の向上に努めている。		

洛和グループホーム守山大門(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所とはブロック会議や研修を通じて相互研鑽の場としている。外部では研修を通じての交流を図り、情報共有や学びの場としている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行い、本人や家人から、これまでの生活やこれからの生活への思いや要望を聞きだすように努めると共に、不安もしっかりと受け止め、安心できるサービス提供を行っている。信頼関係作りに努めている。また入居前面談の本人の言葉や情報などカンファレンスや書面にて職員にも伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談で、家族の思いも聞き取り、要望については叶えられるように支援していく。また、GHでできるサービス内容も説明し、できないこと、家人の協力を得なくてはいけないことについても、しっかりと説明を行う。また入居前面談の情報などカンファレンスや書面にて職員にも伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、家族やケアマネ、相談員と相談して、その方にあったサービス利用を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般を含め、生活全体で、共に支え、共に生きる事を念頭において関わっている。利用者と職員は、第一に人間同士としての関係性、信頼関係が構築出来るように努めている。利用者同士の支えあいもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービスを利用する事により、家族としての関係が希薄にならないよう、家族の関係がより良いものとなるように、本人を中心に関係作りに努めている。面会にも多数来ていただいている。ホームの行事に参加していただいたりもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人・親戚、馴染みの美容室、店、主治医など、本人がこれまで付き合ってきたなじみの関係を大切にできるようにしている。外出の支援や電話・面会の支援を行い、いつでも快く出迎えするように心掛けている。	親戚や友人などの来訪時には居室やリビングでゆっくりしてもらえるように配慮しています。墓参りや入居前に利用していた理美容室や喫茶店、食料品店などへ出かけたり、家族と協力しながら冠婚葬祭への参列の支援を行うなど、馴染みの関係が途切れないように努めています。	

洛和グループホーム守山大門(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士お互いに支えあったり、お互いをいたわりあっている。生活を共に過ごす者同士、当たり前の関わりが出来る様、時に職員が間に入りながら自然に関わりが持てるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	力になれることがあれば、相談や支援していきたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成時だけでなく、日ごろの本人との関わりの中から希望を聞き、思いをくみ取るようにしている。できる限り、実行できるように、職員一人ひとりが意識している。チーム内での共有に努めている。振り返りシートを活用し、本人の思いや今後の関わりにつなげている。	入居前に利用者や家族と面談を行い、意向やこれまでの生活歴、趣味、介護サービスの利用歴などを基にアセスメントシートを作成し思いの把握に繋がっています。入居後は日々の暮らしを支援する中で気づいた事を介護記録に残し、思いや意向の把握が困難な場合は、本人の様子や表情を見てカンファレンスで本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや、入居前の関わり、本人や家人との話を通じて、把握に努めている。センター方式を活用している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況把握に努め、変化に早く気付くように対応している。また、チームでの把握・情報共有に努め、訪看や医師、歯科医との連携を出来る限り図っている。振り返りシートを活用し、本人の状態や思い、今後の関わりにつなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、本人や、家族に要望を聞いたり、医療関係者からの指示を入れると共に、職員の日々の関わりからの意見交換を行い、より個々の生活ニーズに即したプランを立案している	介護計画については、本人や家族の希望、アセスメントを基に初回については3カ月、大きな変動がなければ、その後6カ月もしくは1年で見直し、変化があれば随時見直しを行っています。モニタリングについては計画の半期ごと、3カ月もしくは6カ月ごとに行い、見直しの際には事前に家族や医師、訪問看護師に希望記入用紙に記載してもらい、再アセスメントと意見交換を行い、計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に残し、職員全員で、把握・共有している。また、その記録やカンファレンスでの話し合いから、計画の見直しにいかしている。		

洛和グループホーム守山大門(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時のニーズにできる限りタイムリーにこたえられるように、「自分だったら」「自分の家だったら」など職員の意識統一を図っている。介護職としての専門性や、グループホームのメリットを活かし、そのときその時の状況に応じて対応できるチームを目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方とのなじみの関係が築けるように、地域のお店とのかかわりを大切にしている。地域のボランティアに来てもらい、活動・関わり等から本人にとっての能力が発揮できるよう支援している、		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時の往診医を継続している方や、協力医療機関からの往診医が二週間に一度の定期往診、随時(夜間など)電話での対応や指示を行ってもらっている。また、家族より専門科を受けたいとの希望があった場合も連携に努めている。	従前のかかりつけ医を継続することも可能である旨を説明しています。受診の場合は家族の協力を得ながら必要に応じて職員が同行し、医師や家族と情報交換を行い、受診がスムーズなものとなるように支援しています。定期的な協力医の往診や訪問看護師の訪問の他、希望者は歯科往診や訪問マッサージを受けることもできます。協力医とは24時間連絡が可能で緊急時には指示をもらい対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に一度の訪問で、日々の健康状態について、相談し、指示を得ている。また、訪問以外でも随時、電話での相談や対応体制をとってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員とGHが情報交換をし、必要に応じて医師、看護師、作業療法士、理学療法士、家族、利用者、相談員、GH管理者などで話し合いの場を持ち、状態把握などの情報収集や早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針・看取り指針があり家人に説明している。終末期と診断された場合、本人や家族の希望をふまえ、できること・できないことを見極めながら、本人・家族・往診医・訪問看護師・職員で話し合いを行い、支援が可能と判断できれば支援していく方針である。今年度3名看取りを実施している。	入居時に看取りについての指針に基づいて説明し、本人や家族の意向を確認しています。重度化した場合は医師から家族に対して説明があり、再度意向を確認し、医師や看護師に指示をもらいながら、家族と協力し支援に取り組んでいます。不安な点は医師や看護師に相談したり、職員の経験を振り返り職員間で共有しながら支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時及び定期的に全職員が普通救命講習を受け、対応できるようにしている。また、急変時のマニュアルの把握も日々徹底している		

洛和グループホーム守山大門(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回の自主的な防災訓練を行い、年に2回は消防立会いのもとでの訓練を行っている。事例からの学び、避難方法や通報の仕方などを確認できる場を持ち、意識も高めている。災害についても地域の避難場所や行政の支援情報などの確認をしている。	防災訓練は夜間の想定で2カ月に1度参加が可能な利用者と共に行い、町内会長にも声掛けをして実施しています。その内、年2回は消防署員の立会いの下、通報訓練や避難誘導、初期消火の訓練などを実施し、署員よりアドバイスをもらっています。自主訓練においては事例の検討等の机上訓練を行っています。備蓄品として水などを備えています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応など一人の人間であるという当たり前の理解を忘れないよう意識し、個々の利用者の人格を大切にしている。ただしあまり堅苦しくないように、対応・関わりを心掛けている。トイレや入浴など、プライバシーに関わる言葉掛けを特に留意している。職員同士の会話なども、個人のプライバシーに配慮している。	年1回、法人内で開催される研修に代表者が参加し、ホーム内で伝達研修を行っています。利用者に対して尊厳を持って接し、慣れ合いにならないように節度のある分かりやすい言葉遣いでコミュニケーションを心がけています。不適切な対応があった場合は注意し、会議などで振り返る場を設けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員や他利用者との会話の中で、本人の思いや希望を聴きだし、できる限り叶えられるように支援している。理解できる力に合わせて選択方式などで自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の個々のペースに応じてできる限り対応している。そのときの本人の希望や思いを尋ね、関わってけるように支援している。「自分の家だったら」と置き換えて考えるように努めている。一人ひとりのペースや希望にそった支援を心掛けているが、業務に追われていることも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服、好きな髪型、お出かけ時のおしゃれなど、一人ひとりの希望に応じた支援を行っている。美容室は入居前からの馴染みの店が近所にあるため行っている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立時や買い物時に食べたいものを聞いたり、献立を一緒に考えたり、食事作りもできる限り、本人ができることを共に行う事を意識して、取り組んでいる。体調を見ながら食器洗い、食器拭きなどの後片付けも一緒にしてもらっている。	食材については週1回、業者へ発注し、近隣で買ったもの、家庭菜園で収穫した食材などを使い、献立を利用者の好みも取り入れながら考え、可能な利用者は下ごしらえや盛り付け、下膳などのできることに携わってもらっています。バーベキュー大会や敬老会で家族と一緒に外食へ出かけたり、おやつ作りなど行事食も取り入れながら、食事が楽しいものとなるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が少ない方には、随時、水分をすすめたり、食事摂取は摂取量をチェックシートに記録している。 箸の使用が難しい方にはスプーンを使用してもらうなど本人の状態を考えて支援行っている。		

洛和グループホーム守山大門(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後には、口腔ケアの声かけを行い、磨き残しがないかなど支援している。また、訪問歯科医師や歯科衛生士のケアを受ける機会をもち、アドバイスを受けている。(希望者)		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムを職員が把握し、声かけが必要な方には、随時さりげない声かけを行い、プライバシーの確保にも留意している。リハパンやパットの交換が自力では困難な方には職員が支援している。	個人ごとの排泄チェック表により排泄パターンを把握し、利用者の表情や仕草を見て、トイレへの声掛けや案内を行っています。会議で排泄用品の種類や利用方法、支援方法の見直しを積極的に行い、昼間はトイレにて排泄できるようになったり、布の下着に戻り、肌荒れが改善された利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヨーグルトや牛乳を提供したり、食物繊維の多いもの取り入れるなど、食事の工夫をしたり、体操など生活の中に取り入れ、運動の機会も大切にしている。必要に応じて、下剤の服用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯や希望など、個々の利用者の希望に沿って提供できるように努めているが、前日入っていない方から声掛けをしている為、全ての思いに答えることは出来ない。コミュニケーションやタイミングなど誘い方の工夫を行い、環境面も含め、できる限り快適で楽しく入浴できるよう心掛けている。無理強いはしないようにしている。	週に2回以上は入浴してもらえるように支援しています。ゆず湯などの季節湯や入浴剤、好みの石けんなどの使用で楽しく入浴できるように配慮しています。希望があれば同性介助も可能です。入浴を嫌われる方については、声掛けや時間帯を変えたり、家族に協力してもらうなど個々に合わせて対応し無理のない入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間あまり眠れなかった方には日中の休息時間を大切にしたりしている。また、夜間もできる限り安心して眠っていただけるよう、室温や声かけ、巡視時の対応に留意している。畳部屋やソファベッドの利用もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に薬表を各職員が参照し、理解を深めることに努めている。医師や看護師から指示があった場合は記録に残し、対応している。変化が見られた場合は医師や看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意な方には料理や洗濯物や掃除、家庭菜園や花の世話、歌、ピアノなど、個々の得意な事を引き出し、日々生活の中に張り合いや喜びがあるように支援している。気分転換に、散歩や買い物、ドライブなどにも出かけている。		

洛和グループホーム守山大門(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった場合にはできる限り、外出の支援が出来るよう心がけている。人員的な理由などにより、全ての希望に添えているとはいえない。	季節の穏やかな時には地元地域を中心に近隣への散歩やドライブ、季節の花見、紅葉狩りなどに出かけています。食事会の外出時には家族の参加もあります。また希望を聞いて、馴染みの店での買い物や寺社・神社参り、墓参り、喫茶店、動植物園、書道展などの、個別外出支援にも取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望・力に応じて支援するように努めている。金庫で預かっているが、外出時に希望がある場合はに対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には家人や知人への電話や、ハガキ・手紙のやり取りを支援している。家人からもはがきが届いたりし、遠方の家人ともコミュニケーションが図れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、作品を飾ったりし季節感を出せるように心掛けている。温度・室温もエアコンや換気を行い、利用者に合わせて大きくなりがちなTVの音量についても字幕を出したり配慮した空間づくりを心掛けている。	共用空間には季節の花や利用者が作成した折り紙の作品、書道などを飾り、季節を感じてもらえるように工夫しています。開放感のあるリビングには、ソファや椅子を配置したり、状況に応じて和室を利用するなどして利用者が好きな場所で寛げるように配慮しています。毎日換気や清掃を行い、湿温度計を設置し、利用者の体感も聞きながら快適に過ごせるように気を配っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置いたり、ソファやテーブル席を離したりと、居室以外にもほっこりできる空間を提供している。生活の中で自然と動きがあるように空間の工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭からなじみの家具や大切なお仏壇などを持ち込んでいただいたり、趣味で製作した作品を飾ったり、家族との写真を飾ったりと、本人や家族と相談しながら、今までいた環境に近づけるよう、居心地の良い空間作りに努めている。	入居時に今まで使っていた馴染みの物を持参してもらうように伝え、机や椅子、ドレッサー、冷蔵庫等持参され、家族と相談しながら配置しています。仏壇や自身の作品、書道具、編み物、キーボードなどの大切な物や趣味の道具もそばに置き、今までと同じようにその人らしく安心して暮らせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできること・できないことの把握に努め、職員がやってしまうではなく、できる限り、できることはしてもらい、できないところはさりげないお手伝いを行っている。自主的に行えるものを置いている(掃除や新聞取り)		